

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立芙蓉中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成28年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、数学B〕
・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

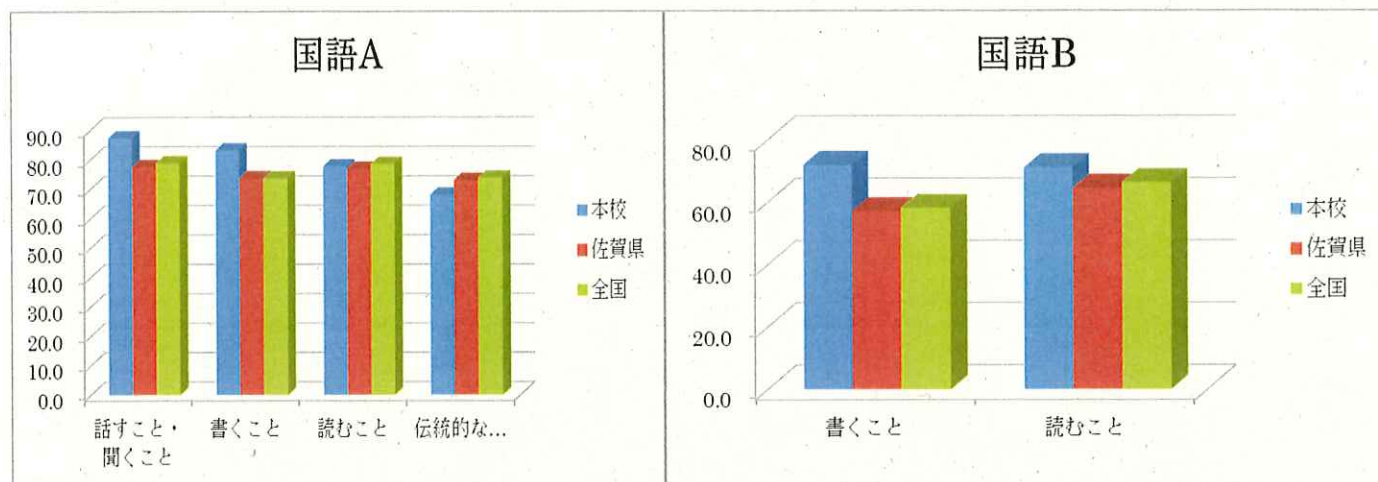
全国学力学習状況調査は中学3年生(小学6年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学(算数)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

中学部 調査結果及び考察

【国語】

(1) 結果

全国・佐賀県正答率との比較（左：国語A 右：国語B）



国語A（基本問題）においては「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は県・国の平均を上回っているが「言語事項」においては県・国と比較しても力が不足している。国語B（主として活用問題）では「書くこと」「読むこと」とともに県・国の平均を上回り、ある程度の応用力がついていることがわかる。無解答率はほとんどの問題でゼロであり難問にも一生懸命に取り組もうとする意識が強い。

(2) 課題

話すこと・聞くこと 聞くことについては相手の発言の聞き方、相手の反応に応じた言葉遣いを考える問題は100%できている。しかし話すことにおいては目的に応じて資料を効果的に用いて話すというところには達していない。

書くこと 基本問題では根拠を明確にして書くことは100%できており、伝えたいことを効果的に書くこと、構成を考えることはできている。しかし文章を吟味し文の使い方に注意して書くことには苦手意識もある。

読むこと 文章から必要な情報を読み取る力、収集方法を考える力は比較的ついているが、応用問題になると資料を目的に応じて的確に読み取って必要なものを選択する力が十分についているとはいえない。

言語事項 基本的な漢字の読み書きについては力がついてきているが、文章の中で語句の意味を理解し文脈の中で適切に使う力は十分とはいえない。また辞書を活用して漢字が表している意味を正しくとらえる習慣をつけていくことが必要である。

(3) 学力向上の取り組み

【学校では】

- 「読むこと」において文章の内容を丁寧に読み取っていく訓練をします。今後、長文に読み慣れていくことが必要となるため継続して授業で取り組んでいきます。
- 「書く」活動は思考力を鍛えていく上でも有効ですので感想や短作文で力をつけていきます。
- 語句、文法については今後も継続して力をいれ、全員の定着度を確認しながら取り組んでいきます。

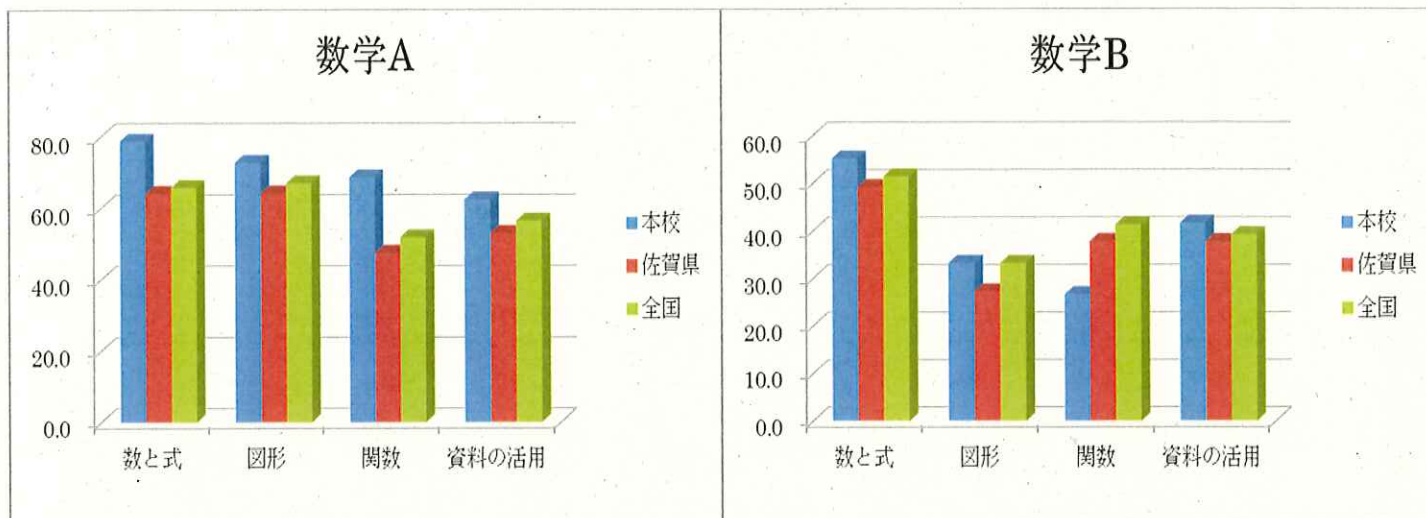
【ご家庭では】

- 学校からは毎日、漢字・語句の習得の課題を出しています。また学校でも読書指導に力をいれますが、ご家庭でもぜひ新聞を読む習慣やお話をするをお願いいたします。家庭でいろいろな本のおもしろさや映画やビデオを話題にしていると、そこから読書につながることも多いかと思いますのでよろしくお願いします。

【数学】

(1) 結果

全国・佐賀県正答率との比較（左：数学A 右：数学B）



数学 A は、すべての領域で県・全国の前答率より高く、基本的な学力は身についている。数学 B は、関数以外の領域は県の前答率より高かったが、関数の領域が低く本校の課題といえる。

(2) 課題

数 と 式	数量関係を考える問いや、方法等を数学的に説明する問いの正答率が低かった。
図 形	見取り図の見方や証明の必要性や意味の理解が不十分であった。
関 数	日常生活の事象を関数的に捉え、解釈し、処理する問題の前答率が低かった。
資料の活用	測定値が与えられた場面において、真の数の範囲を求める問題の前答率が低く、近似値や誤差についての理解が弱いことがわかった。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 毎時間の授業で、生徒が学習目標を達成するために、単元ごとの授業計画を作成することで、めあてを焦点化し、授業を行います。
- 授業前の1分間で復習問題を行い、スパイラル学習に取り組みます。
- 思考力・表現力を高める課題、定義や定理の意味の理解を深める課題、説明する課題を、授業で取り組みます。
- 数学的な思考力・表現力・説明力を高めるために、生徒同士が学びあう（一緒に考える・教える・教わる・説明しあう・考えを深め合う）授業をさらに活性化させます。
- 個々の学習の定着状況を、授業最後の評価テストや単元ごとの計算テストなどで把握し、補充学習・個別指導を行います。

【ご家庭では】

毎時間課題を出します。また、授業等でわからなかったところは復習するようにお話しています。家庭学習の定着への協力をよろしくお願いします。じっくり考える過程を大切にしよう励ましてください。

【生活習慣や学習習慣等に関する調査】

●生活習慣

「毎朝朝食を食べている」「就寝の時間が決まっている」等の質問項目は、県に比べ低く生活習慣の乱れが見られるが確立している。

●学習習慣

「学習塾で勉強していますか」の質問項目は6割以上の生徒が通っていないで自分で取り組んでいる。「図書館の利用(グラフ1)」の項目は、県に比べて活発に活用している。

●言語活動・読解力

授業で「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」は、ほとんどの生徒が当てはまると考えている。友達の意見をしっかりと聞く活動が多く授業で取り入れられている。「原稿用紙に感想文や説明文を書くことが難しい」と思わない生徒が県に比べて多かった。

●自尊感情

「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」「自分にはよいところがありますか」「将来の夢や希望を持っていますか」などは県と同等程度かやや低い数値になっており、自分に自信を持って生活を送っている生徒が減少して来ている。

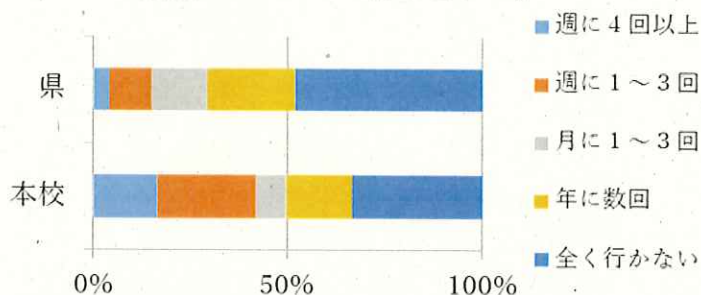
●国語・数学の教科への関心等

「数学の勉強は好きですか」「国語・数学の勉強は大切だと思いますか」「国語・数学の授業の内容はわかりますか」「授業で学習したことは、将来社会に出たときに役にたつと思いますか(グラフ2)」などの質問に、「はい」と答える生徒が多い。興味・関心をもって意欲的に取り組んでいる生徒が多い。

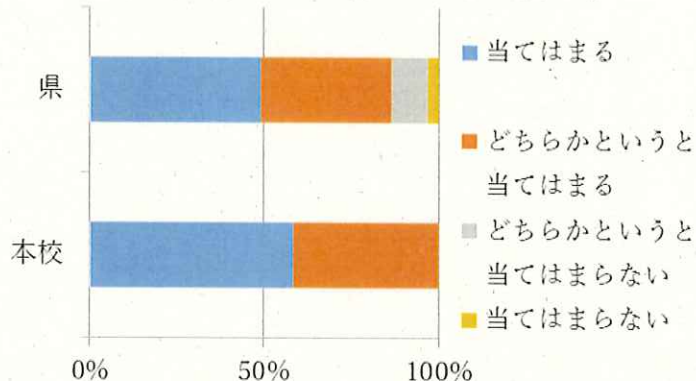
●家庭、地域の協力

「地域社会などのボランティア活動に参加したことがありますか」や「地域の行事に参加していますか」は県を大きく上回っており(グラフ3)、地域と密着した生活は送れている。保護者が非常に忙しい状況に置かれている家庭が多く、家庭での会話を交わす時間が十分に持てない。

グラフ1：昼休みや放課後、学校が休みの日に、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。



グラフ2：国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。



グラフ3：今住んでいる地域の行事に参加していますか。

